

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)エイ・ダブリュ・サービス 岡崎地	階数	地上4F
建設地	愛知県岡崎市池金町字中大入1-56	構造	S造
用途地域	工業専用地域、指定なし	平均居住人員	603 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2016年6月1日
敷地面積	7,400 m <sup>2</sup>	作成者	高橋 幸
建築面積	2,888 m <sup>2</sup>	確認日	2016年6月3日
延床面積	11,460 m <sup>2</sup>	確認者	高橋 幸

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

3.0 1.5 BEE=1.0

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境 (スコア: 0.0)

Q2 サービス性能 (スコア: 2.2)

Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 2.2)

LR1 エネルギー (スコア: 3.2)

LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.7)

LR3 敷地外環境 (スコア: 3.2)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

N.A. N.A. N.A. N.A.

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.2

2.3 2.1

機能性 耐用性 対応性

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

1.0 3.0 2.5

生物環境 まちなみ 地域性・

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

3.0 5.0 1.0

建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

3.0 3.4 5.0

水資源 非再生材料の 汚染物質

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

4.7 2.2 2.7

地球温暖化 地域環境 周辺環境

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		基本設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能				-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 屋光利用				-	-	-	-	-
1 屋光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 屋光利用設備				-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 屋光制御				-	-	-	-	-
3.3 照度				-	-	-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震				2.3	0.52	-	-	2.3
1 耐震性				3.0	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				1.6	0.33	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		3.0	0.27	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				1.0	0.27	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	0.18	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.27	-	-	-
2.4 信頼性				2.0	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備				-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				-	-	-	-	-
3 電気設備		②		3.0	0.50	-	-	-
4 機械・配管支持方法				1.0	0.50	-	-	-
5 通信・情報設備				-	-	-	-	-
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり				2.1	0.48	-	-	2.1
1 階高のゆとり				1.0	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ				1.0	1.00	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				-	-	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.31	-	-	-
1 空調配管の更新性		②		2.4	0.38	-	-	-
2 給排水管の更新性				-	-	-	-	-
3 電気配線の更新性				2.0	0.60	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.40	-	-	-
5 設備機器の更新性				-	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				-	-	-	-	-

スコアシート		基本設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	3.3
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=			-		-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28		-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>				5.0	0.43		-	5.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		高効率の照明器具を配置		5.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)					-		-	
<b>4 効率的運用</b>				1.0	0.29		-	1.0
集合住宅以外の評価				1.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				-	-		-	
4.2 運用管理体制				1.0	1.00		-	
集合住宅の評価					-		-	
4.1 モニタリング					-		-	
4.2 運用管理体制					-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	3.7
<b>1 水資源保護</b>				3.0	0.15		-	3.0
<b>1.1 節水</b>				-	-		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				3.0	1.00		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				3.4	0.63		-	3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	-	再生加熱アスファルト混合物	3.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		仕上げ材の無い建物	5.0	0.25		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				5.0	0.22		-	5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			仕上げ材の無い建物	5.0	1.00		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				-	-		-	
1 消火剤			粉末消火器使用	-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-		-	
3 冷媒				-	-		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	3.2
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				4.7	0.33		-	4.7
1	①	ライフサイクルCO2概算値:56%		4.7	0.33		-	
<b>2 地域環境への配慮</b>				2.2	0.33		-	2.2
<b>2.1 大気汚染防止</b>				-	-		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				2.0	0.67		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				2.6	0.33		-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.33		-	
2 汚水処理負荷抑制				-	-		-	
3 交通負荷抑制	独自		郊外の工場地域である	4.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				2.7	0.33		-	2.7
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				3.0	0.40		-	
1 騒音	独自			3.0	1.00		-	
2 振動	独自			-	-		-	
3 悪臭				-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制					-		-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				1.6	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明の立ち外に漏れる光への対策				1.0	0.70		-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

**重点項目スコアシート**

(株)エイ・ダブリュ・サービス 岡崎地区物流センター

基本設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.3	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)エイ・ダブリュ・サービ

計画上の配慮事項	
総合	敷地奥に建物を配置し、景観に配慮した。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	給水配管でSDG白、頻繁な更新が必要な設備は無い、 外装設計において防錆対策として溶融亜鉛メッキ仕上げを採用
Q3 室外環境(敷地内)	防犯上視野を遮らない開放性のある手摺高さ・材料とした。
LR1 エネルギー	照明設備の制御方法の工夫(自動点滅器、タイマー)
LR2 資源・マテリアル	消火剤について 加圧ガスをCO2、N2を使用しフロン・ハロンの回避をしている。
LR3 敷地外環境	敷地奥に建物を配置し、景観に配慮した。
その他	